

平成30年度 福島小学校学校評価結果の報告

1 これまでの経過

① 5月31日 学校長の経営方針をもとにした重点目標の達成、努力事項に対する具体的取り組み事項の検討 (校内研修)

- * 昨年度の学校評価の結果を考慮し、六つの重点事項及び努力事項達成のための具体的取り組み事項について、全職員を校務分掌を考慮した6グループに分け検討。
- * 具体的取組事項別紙参照 (前期分)

② 10月25日 中間の自己評価と具体的取り組み事項の見直し(校内研修)

- * 10月上旬に自分たちの取り組みについて各自、中間自己評価を行い、集計結果をもとに具体的取り組み事項の見直し(10/25)を実施した。(課題別グループ協議)
- 内容
- (1)集計結果の感想や意見交換
- (2)継続して取り組んでいく事項
- (3)見直しをしなければならない事項の確認と精選・改訂

	具体的取り組み事項	評価率(%)				マイナス評価	プラス評価
		1評価率	2評価率	3評価率	4評価率		
よく分かる授業の工夫	・板書、発問を工夫する。	0%	16%	69%	16%	16%	84%
	・授業中に自分一人で考える場を設定する。	0%	13%	63%	25%	13%	88%
	・定期的にノートチェックをし、よいノートを紹介する。	3%	13%	55%	29%	16%	84%
	・毎時間、学習のめあてを提示する。	3%	3%	48%	45%	6%	94%
	・学習のふり返りを行う。	6%	23%	55%	16%	29%	71%
	・児童の実態に合った課題設定をし、それを解決していく授業を行う。	0%	19%	59%	22%	19%	81%
読む・話す等の言語活動の充実	・体験的、作業的な活動を取り入れる。	0%	10%	55%	35%	10%	90%
	・「O分スタート」と「終了時刻」の徹底を図る。	0%	16%	52%	32%	16%	84%
	・音読や読書の機会を増やす。	0%	17%	47%	37%	17%	83%
	・各教科等で学年に応じた書く活動(学習のふり返り、日記、作文など)を取り入れる。	0%	23%	63%	13%	23%	77%
	・教師や友達の話の聞く態度を育てる。	0%	6%	78%	16%	6%	94%
	・各教科等で学年に応じた話し合い活動(ペア・グループ・全体等)を取り入れる。	0%	38%	44%	19%	38%	63%
ICTを活用した効果的な指導	・ICTの使い方を工夫し、充実させる。	7%	30%	33%	30%	37%	63%
	・話し合いの場でICTを積極的に活用している。	20%	43%	27%	10%	63%	37%
家庭学習のすすめ	・子どもたちの意欲を高めるような「家庭学習の手引き」に改善し、積極的に使う。	11%	33%	56%	0%	44%	56%
	・「家庭学習の手引き」を活用した児童の具体的な事例を紹介する。	22%	41%	37%	0%	63%	37%
	・家庭での読書をすすめる。	4%	54%	36%	7%	57%	43%

③ 11月中旬 アンケート内容の検討 (学年別)

* 年度末自己評価をおこなう際の参考となる児童・保護者アンケートについて、学年別各グループで内容検討。

- ④ 12月上旬 保護者・児童アンケート実施
- ⑤ 1月中旬 アンケート集計・分析(学年別)
- ⑥ 1月下旬 年度末自己評価の実施
- ⑦ 2月14日 来年度の課題と改善策の検討(校内研修)
- ⑧ 3月6日 学校関係者評価実施(評議員会)
- ⑨ 3月7日 学校評価について報告(校内研修)

2 学校経営基本方針

(1) 学校教育目標

「就将」の精神を基盤として、
確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

(2) 重点目標

- ① 確かな学力を身に付けた子ども
- ② 心豊かな子ども
- ③ 心身ともにすこやかな子ども
- ④ 個に応じた指導
- ⑤ 安心・安全な学校づくり
- ⑥ 家庭・地域等と協力・連携した学校づくり

H30児童アンケート(3~6年生用)					
学 年 () 年					
以下の各項目について、「よく出ている」「大抵出ている」「あまり出していない」「出していない」のいずれかに○をつけてください。					
(1) 学習について					
1	学校の授業はよく分かりますか。	よく出ている	大抵出ている	あまり出していない	出していない
2	宿題をきちんとしていますか。				
3	家で勉強するときは、テレビ・ゲームなどを消して勉強していますか。				
4	授業中おしゃべりや手遊びをしないで、落ち着いて学習していますか。				
5	パソコンやタブレット(パソコン)やテレビを使った学習は分かりますか。				
6	授業がはじまるまでに、学習(本やノート)のじゆんぴがはかまっていますか。				
7	学校で、自分の考えを述べて言うことができますか。				
8	授業の人や地域に出での学習は、役に立っていると思いますか。				
9	今、学んでいる外国語活動は、将来役に立つと思いますか。				
10	読書していますか。				
11	学校では、はきはきと音読できていますか。				
(2) 生活について					
1	困っている友だちを助けるなど、やさしく思いやりのある行動ができていますか。	よく出ている	大抵出ている	あまり出していない	出していない
2	先生や大人には「です(ます)」など、ていねいな言葉が話せますか。				
3	給食の先生に、気持ちこめてあいさつをすることができていますか。				
4	好ききらいな(何でも)も食べていますか。				
5	チャイムを守っていますか。				
6	らうかや階段を走らず、右側を歩いていますか。				
7	交通ルールを守って生活できていますか。				
8	毎日、おうちの人や先生、友だちに自分から進んであいさつできていますか。				
9	交通当番をして下る人にあいさつができていますか。				
10	そうじの時間は、静かにそうじをしていますか。				
11	～ルのスリッパをそろえたじゆんぴをひっかけたりするなど、かんたんな約束を守っていますか。				
12	休み時間には、元気に外で遊んでいますか。				
13	何か困ったときに、先生に相談できますか。				
14	学校へ行くのは楽しいですか。				

3 児童・保護者アンケート

全学年の児童，保護者にアンケートを実施した。アンケートについては昨年度との経年比較も出来るようにした。

(1) 児童アンケート集計結果 * 別紙参照

それぞれの質問項目について，よく出来ている・大体出来ている・あまり出来ていない・出来ていないの4段階でアンケートを実施した。また，(よく出来ている・大体出来ている)を肯定的評価(プラス)とし，(あまり出来ていない・出来ていない)を否定的評価(マイナス)とした。

(2) 保護者アンケート集計結果 * 別紙参照

それぞれの質問項目について，そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また，(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし，(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

(3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察

特徴

～児童アンケートより～

- ・例年同様，授業はよく分かっている児童が多い。
- ・学校生活を楽しみ過ごしている児童が多く，困っている友達を助けるなどやさしく思いやりのある言動もよく見られるようになってきた。
- ・休み時間に積極的に外で遊ぶ児童が多くなってきており，運営委員会や体育委員会の企画した遊び(週間)にも意欲的に参加するなど多くの児童が運動に好意的に関わっている。
- ・チャイムを守ったり，交通ルールを守ったりすることはよくできており，宿題など与えられた課題にも真面目に取り組むことができている。
- ・コンピューターやTVを使った学習はとてわかりやすいと感じている児童が今年も多いことがわかる。
- ・読書をしている児童も年々増えてきている。

～保護者アンケートより～

- ・昨年と同様，8割以上の保護者が「学校の授業がよく分かっている」と感じている。
- ・「遊びのルールやマナーを守って友達と仲良く遊ぶ」や「命の大切さや人権を尊重しようとする意識が育っている」と感じている保護者の割合は多い。
- ・「読書に親しんでいる」と感じている割合は増えてきている。
- ・「毎朝きまった時間に起きる」や「毎朝ごはんを食べる」などはよくできている。
- ・親子で会話する時間がもてている。
- ・防災について話をする割合も増えている。
- ・地域の施設や人材を生かした学習は役に立っていると感じている保護者の割合も多い。
- ・警報発令時など適切な連絡体制の整備，安全指導や防災についての指導に対してのプラス評価も高く，学校運営への理解を示して下さっている。

課題

<表現力>

- ・3年間を比較すると，できていない項目とできている項目が同じである。特に「学校で自分の考えを進んで言う」が低い。
- ・ペア学習やグループ学習を通して自分の考えを言える場の設定をより多く設ける必要がある。
- ・授業のみならず学校生活のあらゆる場面でお互いの考え出し合う場を取り入れるなど工夫した手立てが必要である。

<落ち着いた生活・規範意識>

- ・「給食の先生や交通当番の方へのあいさつ」のプラス評価がわずかではあるが低くなっている。今年度は，1月に運営委員を中心に学校全体であいさつ運動を行い，少しずつではあるがあいさつの輪が広がってきている。これからも児童主体な取り組みを中心に根気強く指導していきたい。
- ・学校生活では落ち着いた生活を送ることや規範意識に少し課題がみられる。

「落ち着いて学習」「トイレのスリッパ」「静かに掃除」

「廊下や階段を走らず，右側を歩く」

- ・学校生活を安全に過ごすための規範意識がまだまだ弱いところがある。全職員で共通理解のもと

指導を徹底していく必要がある。

・前年度、前々年度に比べプラス評価が増えている項目（規範意識）でも、廊下を土足で歩く・くつのかかとを踏む・帰りのあいさつと同時に教室を駆け出し、大きな音を立てて階段を下りる・言葉遣い等が気になる。手立てとして、年度初めに指導を徹底する。学校全体で授業の終わりや帰りの挨拶前に一言、「廊下は歩きましょう」と声をかける。引き続き運営委員を中心に児童主体の活動を考えるに等取り組む必要がある。

<家庭での読書>

・読書について、学校ではだいぶできてきているが、家での読書はプラス評価が増えてはきているが、50パーセントには達していない。

・社会環境が変化していくなかで放課後に家で読書の時間をとる習慣づくりはなかなか難しい。その分、学校で朝の活動などで読書活動に親しむ時間をつくっているのだから、児童が本をもっと読みたいと思うような手立てをさらに考えていく必要がある。

<防災>

・「防災についてお話しする」が昨年に比べプラス評価が上がってはいるが、さらに、学校の防災学習で学んだことや避難訓練で実感したことなどを、家庭で話し合えるような手立てを学校や学級でもっとしていくなど啓発活動が必要である。

・家庭でいるとき、登下校のときにどこに避難するのか等家庭でしっかりと話しておくことは大切なことなので、機会あるごとに発信していきたい。

<手伝い>

・「きめられたお手伝いを責任をもってする」が低いのも気になる。家族のためにみんなのために進んでお手伝いのできる児童に育てたい。

<その他>

・プラス評価が高くても「よくできている」が100%になることをめざすべき項目がある。学校のルールとして「授業の準備」「チャイムを守る」は、基本的なことであるので指導を徹底し、「よくできている」を100%にしたい。

・家庭学習についてはきっちり取り組んでいる児童がいる一方で、ながら学習になっていたりと、宿題を次の日の登校後に行ったりするなど取り組み方に課題がみられる。

・あいさつ、早寝早起きといった基本的な生活習慣にもやや問題がある。特に夜寝る時間についてプラス評価が60%とやや低いが、家庭の事情もあり難しい問題である。引き続き生活の改善について呼びかけていきたい。

・保護者は学校教育に対して関心が高いことがわかり、児童にも、よりわかる授業、そして楽しい授業になるよう努めていく必要がある。

4 自己評価

(1) 自己評価結果

教員には、学校の重点目標に照らし合わせ、実践課題を設定しいくつかの具体的取り組み事項を検討しその取り組みについて自己評価を行った。

* 年度末自己評価結果別紙参照

(2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について

①「確かな学力を身につけた子ども」について

・分かる授業の充実を図るための教師の教材研究により、自力解決をし、分かる喜びを児童が実感している。

・児童の実態に合った課題や教材を工夫し、体験的・作業的な学習を積極的に取り入れ、児童の学ぶ意欲を大事にすることができた。

・ICTの必要性は実感しているが、授業の中での効果的な活用方法についての教師自身の研修が不十分であり、十分に指導に生かすことができなかった。

・学習のめあてを毎時間提示しているが、それが子どもの実態に合っているかどうか考える必要がある。

・学習の振り返りについてもまだまだ不十分であり、振り返りの時間の確保に問題がある。

・教師や友達の話聞く態度を育てる指導はできているが、まだまだ教師主導の授業が多く、ペア学習やグループ学習といった話し合い活動の場を設けることが少なかった。

・4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、家庭学習への啓発を行ったが、後期はそれを指導に十分生かすことができなかった。

<改善の方向性>

- ICTを活用した効果的な指導方法
- 学習のめあての設定方法とふり返りの時間の確保
- 「家庭学習の手引き」の再検討

②「心豊かな子ども」について

- ・朝の歌を全校で流すことで、自然に声をあわせて歌うことができていた。
- ・きまりの意義についての指導やきめられたことを守って行動している児童を認め、声かけをするなど規律や規範意識への指導は十分行っていると言えるが、「廊下を走らずに歩く」や「チャイムを守って生活する」などできていないことも多いので引き続き指導が必要である。
- ・朝の活動で読書活動を2回は行っているものの、プラス評価が70%と高くなかったので、読書活動をもっと進めていく必要がある。
- ・全校に落ち葉拾い等呼びかけ実施することができた。また、あいさつ運動も運営委員会を中心にを行った。教師主導ではなく、児童主体で実践できたことは大きな成果である。

<改善の方向性>

- 読書活動の充実
- 規律や規範意識高揚へのさらなる指導の手立て

③「心身ともにすこやかな子ども」について

- ・体育委員会や運営委員会の様々な企画を中心に、楽しんで運動に取り組める機会を多くつくったり、外遊びの奨励をしたりすることができており、休み時間に外遊びをする児童が多く見られた。
- ・体育設備について、遊具の劣化が進み使えない遊具があるので、さらに環境整備を進めていく必要がある。
- ・体力100日アップ作戦を20日作戦と短期間で取り組めるように改善を図ったが、取り組みへの意識が低かった。
- ・食育の日（残食ゼロリンピックなど）を中心とした給食を残さず食べるはたらきかけにより、児童の残さず食べようとする意識が高くなっている。

<改善の方向性>

- 外遊びや体育の授業をより行いやすくするための環境整備
- 「体力アップ20日作戦」の意識を高める手立て

④「個に応じた指導」について

- ・巡回相談員や大学院生、学習支援ボランティア等の活用や支援の必要な子どもについてのケース会議や生徒指導連絡協議会等での全教職員への共通理解は十分に行っていた。
- ・特別支援コーディネーターを中心に、校内での報告・連絡・相談の体制も整っていると言える。
- ・アレルギー等がある児童への支援体制も整ってはいるが、担任だけでなく、補教等で急な対応にも備えておく必要がある。

<改善の方向性>

- アレルギーや持病がある子どもたちの共通理解・安全確認のためのファイリング作成

⑤「安心・安全な学校づくり」について

- ・どの項目においてもほぼよくできていた。
- ・避難訓練についても、授業時間だけでなく、清掃時間に行うことができた。
- ・防災についても、朝の会等で取り上げるなど意識の高揚を図ることができたが、家庭への啓発がまだ不十分である。オープンスクールや参観日に防災についての授業や講演会を行うなど方策が必要ではないか。
- ・清掃活動への指導もプラス評価が高いが、成果が十分表れているとは言えない。異学年集団での清掃活動への取り組みも考えられる。

<改善の方向性>

- 防災についての家庭への啓発活動への方策

⑥「家庭・地域等と協力・連携した学校」について

- ・チーム福島としての協働の体制がしっかりととれており、教職員のまとまりがある。
- ・保護者や地域の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、総合的な学習の時間等も行われ、成果を上げている。
- ・HPについては、今年度は夏休みのプール開放時の熱中症指数上昇による中止連絡に利用を行った。しかし、保護者アンケートからは、給食の献立（写真）も載せてほしいという要望もあり、更なる充実を図る必要がある。
- ・地域行事への参加啓発も自己評価は96%と高いが、保護者アンケートでは昨年度よりも低くなっており、工夫が必要である。

<改善の方向性>

- HPの更なる充実（内容の検討）
- 地域行事への参加啓発の工夫

5 学校関係者評価と改善方針

これらの結果及び改善の方向性をもとに、学校評議員の方々からご意見をいただき改善方針等の検討をした。来年度、上記改善の方向性ととも、次の方針をもとに学校改善に努めていき、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をめざしていきたい。

改善方針

- ・学校へ行くのが楽しいと感じている子どもがとても多く、学校は、授業時間休み時間問わず活気にあふれている。一方で自分の考えを進んで言えない、困ったことを先生に相談できない子どももいる。誰もが学校が楽しいと感じ、誰もが進んで発言できるようになるために、今後も児童理解に努め、温かい雰囲気づくり・言語活動の充実等に取り組んでいく。
- ・読書習慣の形成では、朝の読書活動や読み聞かせを活用し、もっと読んでみたいと思えるようなきっかけづくりが必要である。
- ・防災意識の高揚のためには、防災について取り上げる機会を増やしたり、子どもに興味をもたせるような教師の働きかけや環境整備等の手立て、保護者への啓発や地域の自主防災組織との連携により、学校と家庭・地域が一体となった取り組みをめざしていく。
- ・地域の方々の見守りや交通当番等により子どもたちは安全に過ごすことができているが、学校内外において落ち着いて安全に過ごすための規範意識はまだまだ弱い。特に、下校の仕方には問題があり、各種安全教室や全職員共通理解のもとでの指導の徹底により規範意識の向上につなげていく。
- ・運営委員や体育委員を中心とした様々な企画により、外遊びをする子どもや体育学習を楽しみにしている子どもが多い。また、好き嫌いなく給食を食べる子どもも増えてきており、元気いっぱい活動ができている。一方で夜寝る時間が遅く、睡眠不足気味の子どもや朝から眠そうな子どももいる。保護者との連携や啓発を今後も推進していくことで基本的な生活習慣の改善を図っていく。

（*児童・保護者の意識調査結果やそれらの考察を含めた詳しい学校評価についての報告は、学校ホームページに掲載する予定）